

観光客実態調査から見る

伊勢志摩サミットが伊勢市の  
観光に与えた影響

平成 29 年 3 月

伊勢市産業観光部観光振興課



## 伊勢志摩サミットが伊勢市の観光に与えた影響

平成 28 年 5 月 26 日・27 日、三重県志摩市において伊勢志摩サミットが開催されました。開催に際し、各国首脳が伊勢神宮のご訪問をはじめ、伊勢市でもさまざまな歓迎行事や各国メディアの取材が行われました。また、サミットを契機とした伊勢に関するテレビ番組が多数放映されるなど、メディアを通じ、日本全国及び世界へ「伊勢」の名が発信されました。

こうしたことからサミット後の伊勢市では、伊勢神宮を始めとした観光施設で観光客が増加するなど、サミットは伊勢市の観光に様々な影響を与えました。

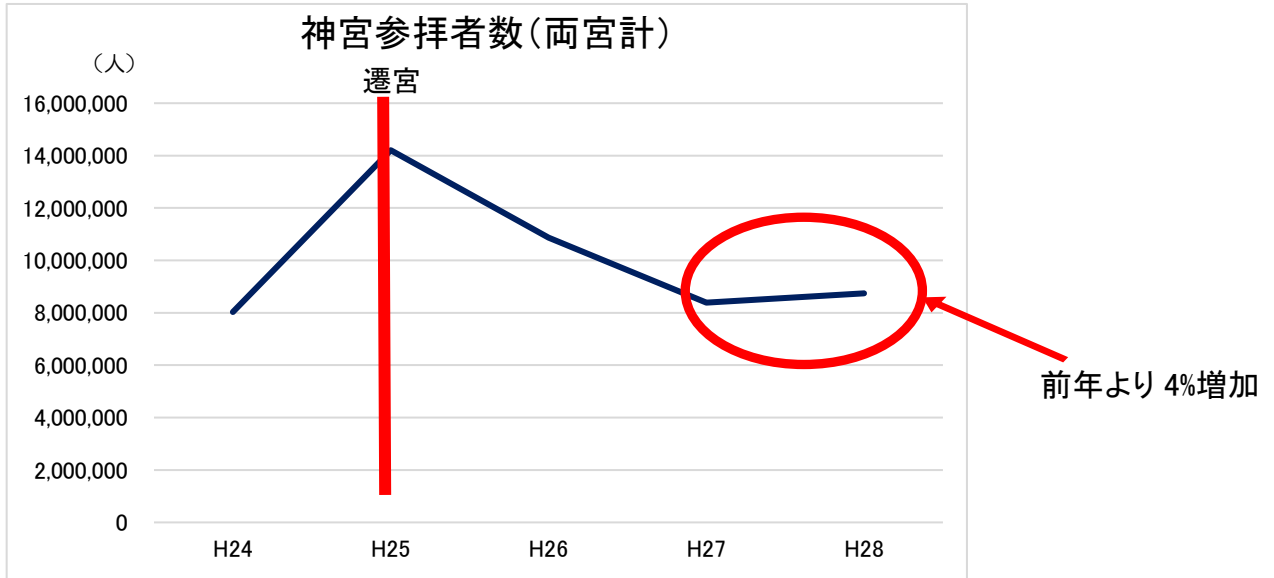
そこで、伊勢市が平成 26 年から実施している伊勢市観光客実態調査の結果をクロス集計することにより、サミットによる影響の分析を行ったところ、リピーターの増加やヘビリピーターの滞在時間増加、立ち寄り箇所数増加、帰る時間が遅くなったなど好影響のほか、テレビがきっかけでの来訪の増加や、他にも年齢、同行者、交通手段等にも変化が見られました。一方で、日帰りの増加、来訪時間が集中といった懸念材料も見られました。しかし、市内宿泊の割合の減はわずかに留まっていることから、単純に伊勢市を訪れる観光客の旅程が日帰りに移行している訳ではありません。

また、初めて伊勢を訪れる観光客は、「市内宿泊の割合が高い」「公共交通機関で来訪」「神宮を核とした周遊が多い」といった特徴や、若い世代ほど伊勢を出る時間帯が遅い傾向が明確に見えたことから、今後も継続的にターゲットを定めた施策を実施することにより、市内周遊、消費促進に繋げることができると考えられます。

遷宮以降、継続して実施した PR に加え、サミットをきっかけとしたメディア露出により、より一層伊勢市の観光にとって好影響となりました。今後、平成 29 年 4 月 21 日～5 月 14 日にはお伊勢さん菓子博 2017（第 27 回全国菓子大博覧会・三重）が開催され、その後も全国高校総体、東京オリンピック・パラリンピック、三重国民体育大会「三重とこわか国体」など伊勢市の観光に大きく影響を与えると考えられる行事が多数続きます。これらの機会を積極的に活かし、誘客や受入体制整備を行っていきます。

## 【1】神宮参拝者数の推移

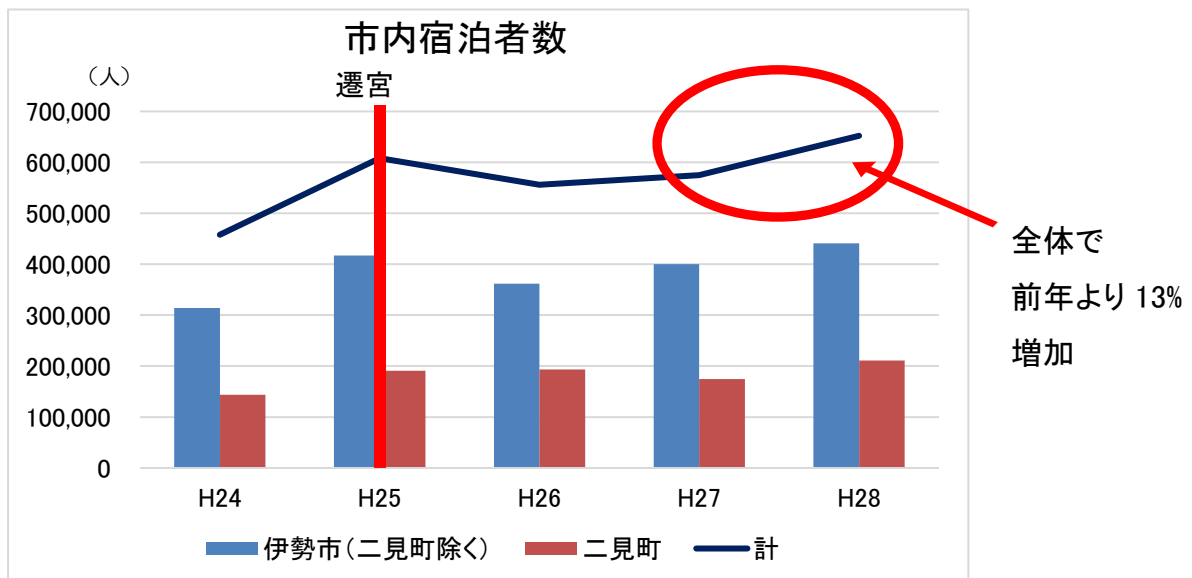
遷宮後、神宮参拝者数は減少傾向にあったが、平成28年は前年を上回った。



平成28年伊勢市観光統計より

## 【2】市内宿泊者数の推移

伊勢市(二見町を除く)は昨対比約1割増、二見町は昨対比約2割増となった。サミット関係者の宿泊による増加の影響が考えられる。



平成28年伊勢市観光統計より

### 【3】観光客実態調査 H27 と H28 のクロス集計比較による分析

遷宮以降、継続して実施したPRに加え、サミットをきっかけとしたメディア露出により、より一層伊勢の観光にとって好影響となった。

#### ①好ましい傾向

##### ・リピーター増加

4～9 回目のリピーター、10 回以上のヘビーリピーターが合計で 15.7 ポイント増加している。中でも遠隔地である関東地方の 3 回目、4～9 回目のリピーターが合計で 18.4 ポイント増加している。伊勢ファンが増加していることがうかがえる。

##### ・ヘビーリピーターの滞在時間増加

日帰りの「ヘビーリピーター」では、7 時間以上の長時間滞在が増加している。県内全体の平均日帰り滞在時間 5.4 時間を大幅に上回る滞在時間の観光客が増えている。伊勢ファンがより深く伊勢での観光を楽しんでいると考えられる。

##### ・立ち寄り箇所数増加

立ち寄り箇所数 4 地点以上の合計が 22.3%から 32.4%へと 10.1 ポイント増加している。市内での周遊性が高まっていることがうかがえる。「両宮参り」が5割以上と定着しつつある上、月夜見宮、月読宮、せんぐう館といった神宮関連施設や猿田彦神社などがその訪問先と考えられる。サミットをきっかけとしてテレビ番組で市内の様々な観光施設が取り上げられた影響があると考えられる。

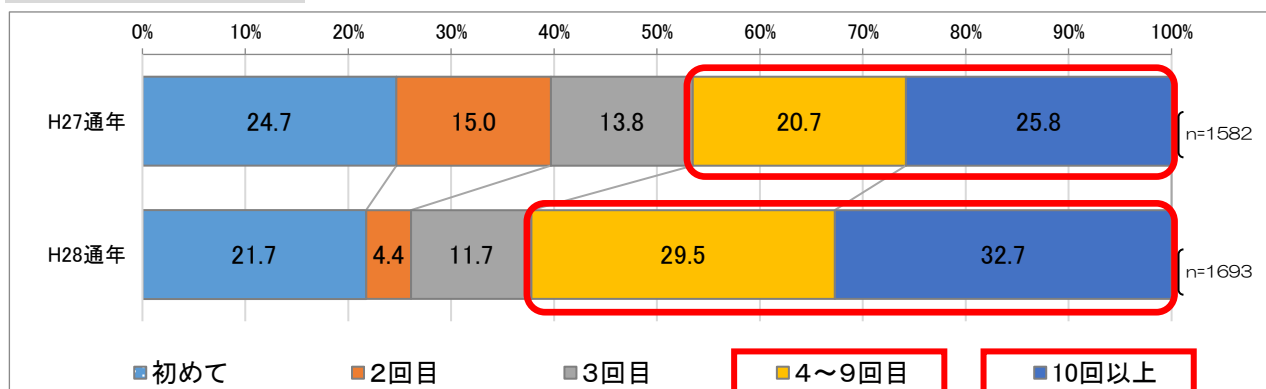
「外宮から内宮へ」が 44.6%と定着する一方、「内宮から外宮へ」の順で訪れる人が 9.6%となっている。

##### ・帰る時間が遅くなった

日帰り客増加傾向の中、滞在時間延伸、「伊勢で夕食」に繋がる好ましい傾向と考えられる。

#### ●来訪回数

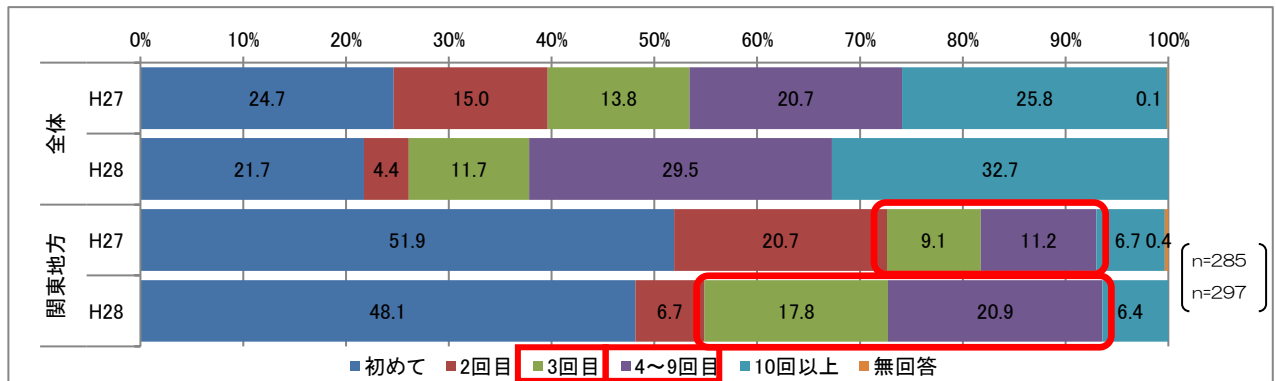
##### リピーター増加



・4～9 回目のリピーター、10 回以上のヘビーリピーターが合計で 15.7 ポイント増加している。このことは、今回の分析の大きな特徴。

●発地別（関東地方）×来訪回数

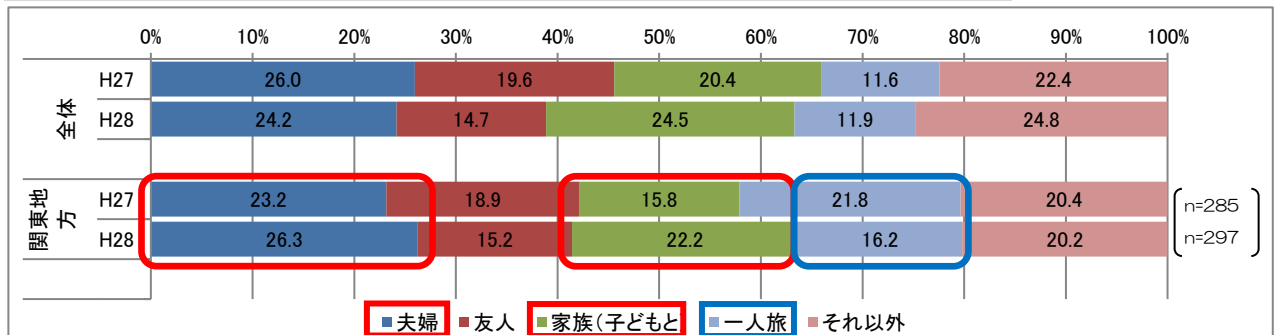
関東地方のリピーターが増加



・関東地方の3回目、4~9回目のリピーターが合計で18.4ポイント増加している。関東地方は伊勢へ訪れる際、おおむね4時間以上かかるため、遠隔地と位置づけられるが、そこでリピーターが増加していることは、好ましい傾向。

●発地別（関東地方）×同行者の種類

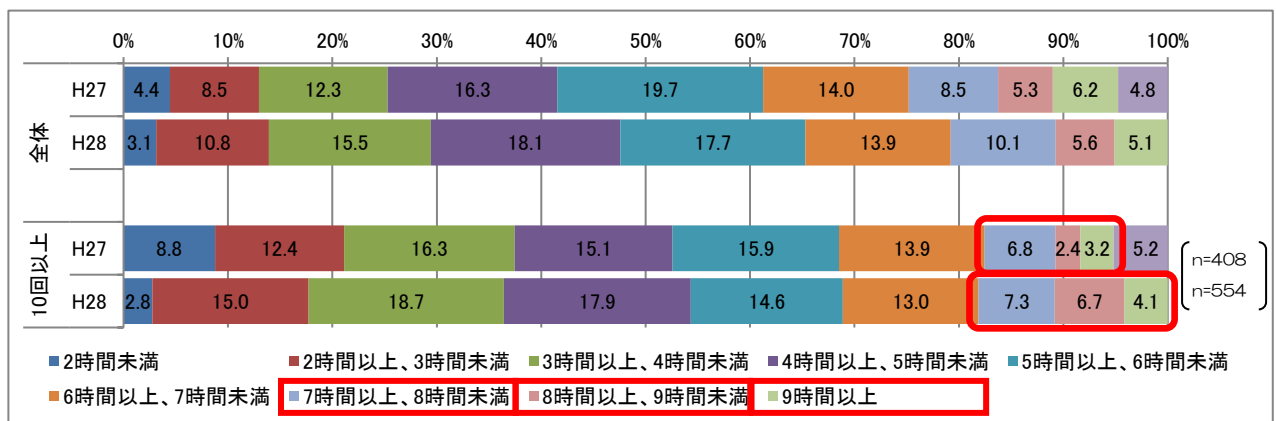
関東地方は一人旅から家族（子どもと）、夫婦へ変化



・関東地方は一人旅が減少し、家族（子どもと）、夫婦が増加している。

●来訪回数×日帰り滞在時間

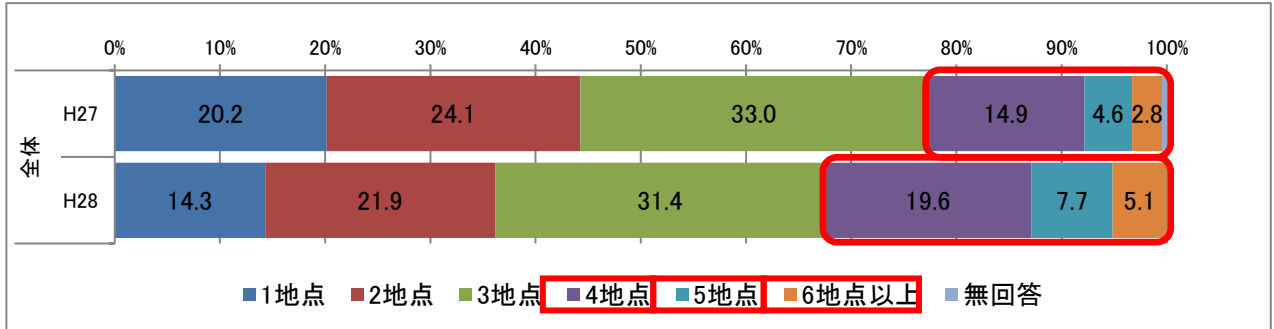
ヘビーリピーターの長時間滞在が増加



・日帰りの「ヘビーリピーター」は、7時間以上の長時間滞在が増加している。平成27年の三重県の調査では、県内全体の平均日帰り滞在時間は5.4時間であったことと比較すると、それを大幅に上回る滞在時間の観光客が増えていることは好ましい傾向。

●立ち寄り箇所数

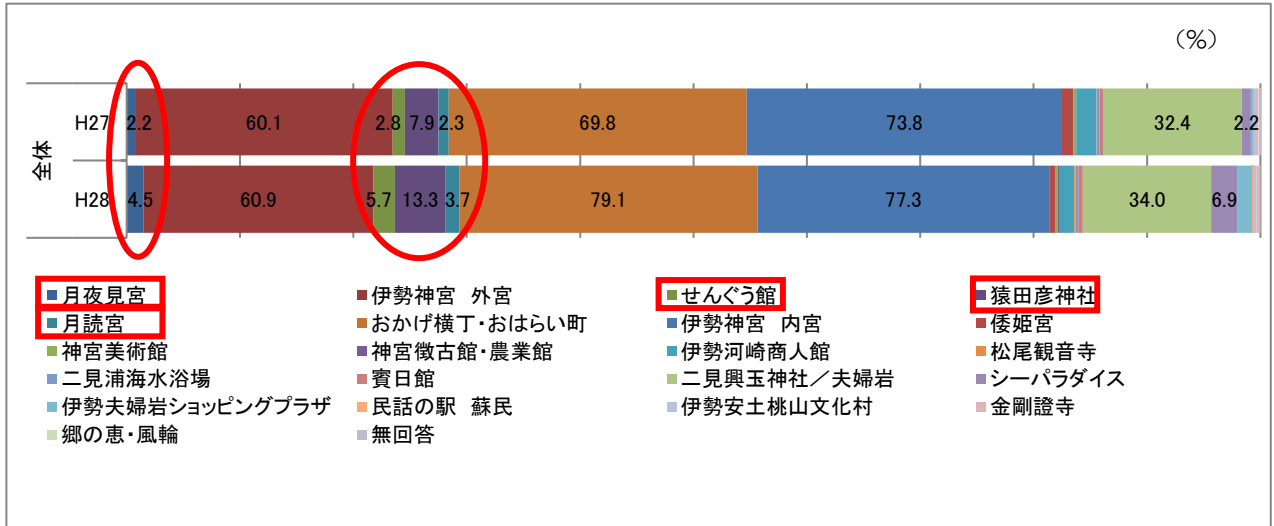
立ち寄り箇所数の増加



・立ち寄り箇所数 4 地点以上が増加している。4 地点以上の合計が 22.3%から 32.4%へと 10.1 ポイント増加している。市内での周遊性が高まっていることがうかがえる。

●立ち寄り箇所

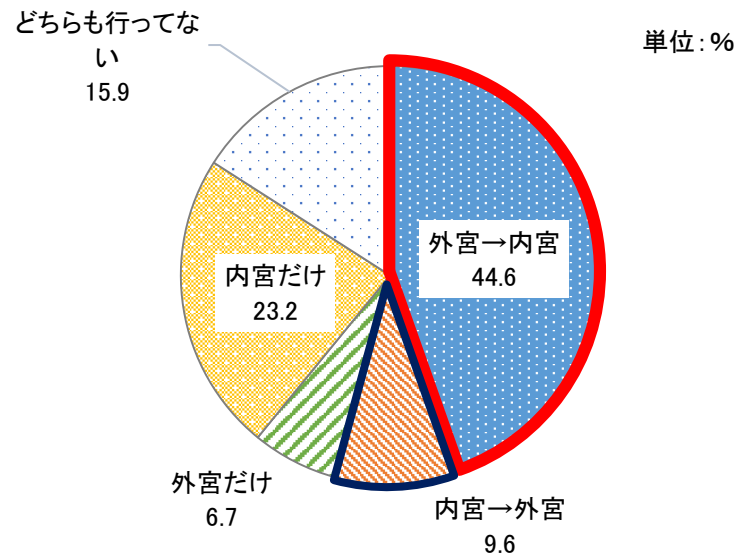
月夜見宮など神宮関連施設や猿田彦神社などが増加



・「月夜見宮」「月読宮」「せんぐう館」といった神宮関連施設や「猿田彦神社」などが増加している。立ち寄り箇所数が増加して訪れている訪問先と考えられる。サミットをきっかけとしてテレビ番組で市内の様々な観光施設が取り上げられた影響もあると考えられる。

●外宮内宮周遊順序（平成 28 年）

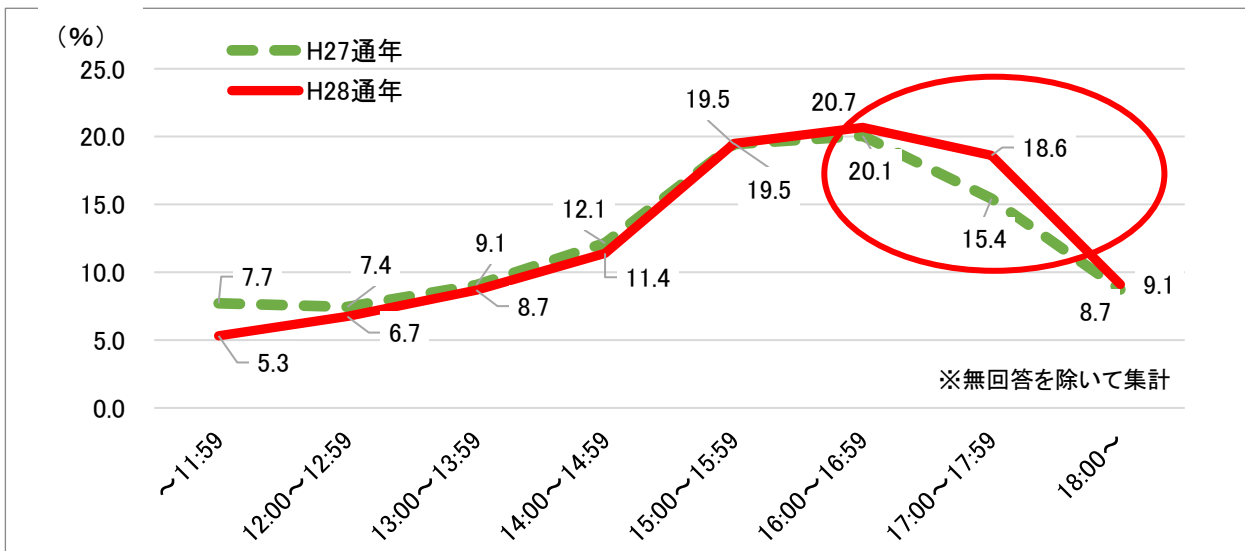
外宮・内宮の両宮を訪れている人が 54.2%  
 外宮⇒内宮の順で訪れる人が 44.6%  
 内宮⇒外宮の順で訪れる人が 9.6%



- ・「両宮参り」が5割以上となっている。
- ・「外宮から内宮へ」の順で訪れる人が 44.6%、「内宮から外宮へ」の順で訪れる人が 9.6%となっている。

●伊勢市から出る時間

帰る時間が遅くなった



- ・遅い時間に伊勢市を出る人が増加した。日帰り客増加傾向の中、滞在時間延伸ばかりではなく、「伊勢で夕食」に繋がる好ましい傾向と考えられる。



## ②変化

### • テレビがきっかけで来訪

情報の入手先としてインターネットに押されている印象のあるテレビだが、今回の分析では、サミットを契機としたテレビ放映が、伊勢への来訪に大きな役割を果たしたと考えられる。とくに来訪回数では「初めて」「2回目」、同行者では「一人旅」への影響が大きかった。

### • ホテル宿泊が増加

宿泊施設の種類の分析すると、「ホテル」の割合が8.4ポイント増加している。近年、市内への新規出店が続いていることが影響していると考えられる。

### • 年齢による変化

全体で日帰りが増加傾向にあるが、中でも50歳代が19.1ポイント増と大きく増加した。

全体的に一人旅が減少傾向にある中、50歳代、60歳代の一人旅が増加しており、60歳代では4.6ポイント増となった。

外宮内宮周遊の状況を分析すると、20歳代、30歳代で「外宮だけ」が増加しており、二つの合計で12ポイント増の34.2%であった。

### • 車での来訪増加

車利用者の割合が増加しており、増加の割合は5.8ポイントであった。

### • 同行者の変化

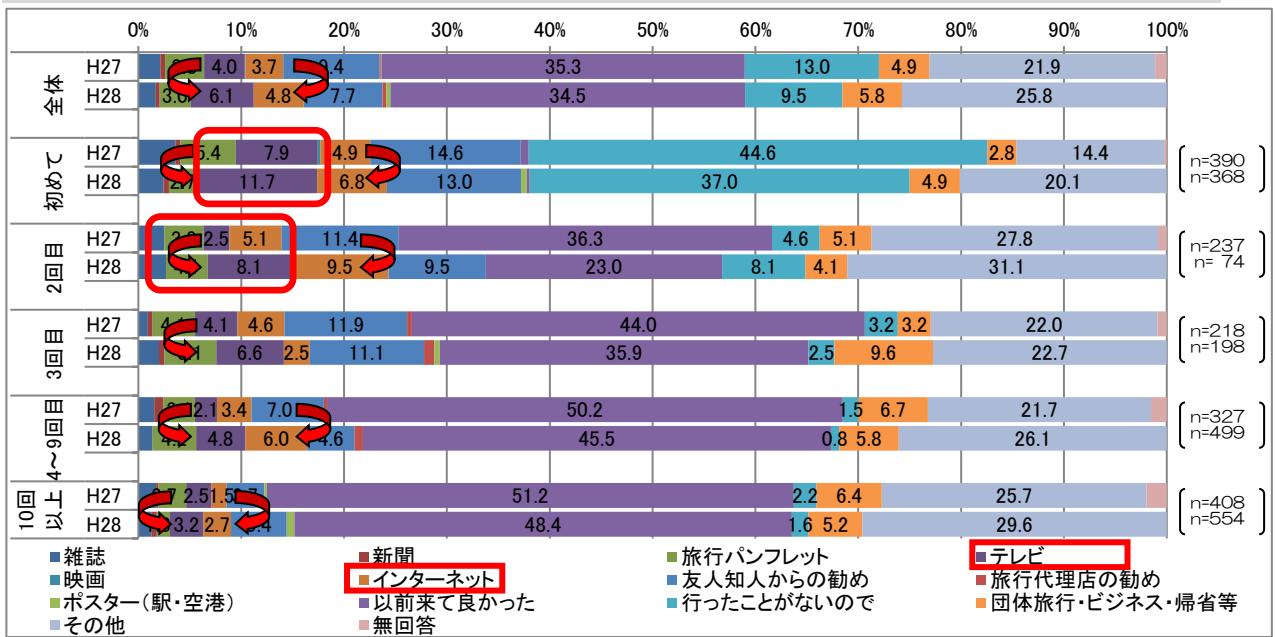
旅程別で同行者の種類を分析した結果、日帰り・宿泊ともに「家族（子ども）」の来訪が増加しており、全体で4.1ポイント増となった。

全体的に「友人」が減少している中、「初めて」のみ1.1ポイント増加している。

「テレビ」がきっかけで伊勢に来た人 104人（総数 1,693人）  
 「サミット」がきっかけで伊勢に来たと答えた人  
 15人（総数 1,693人）

●来訪回数×伊勢市を選んだきっかけ

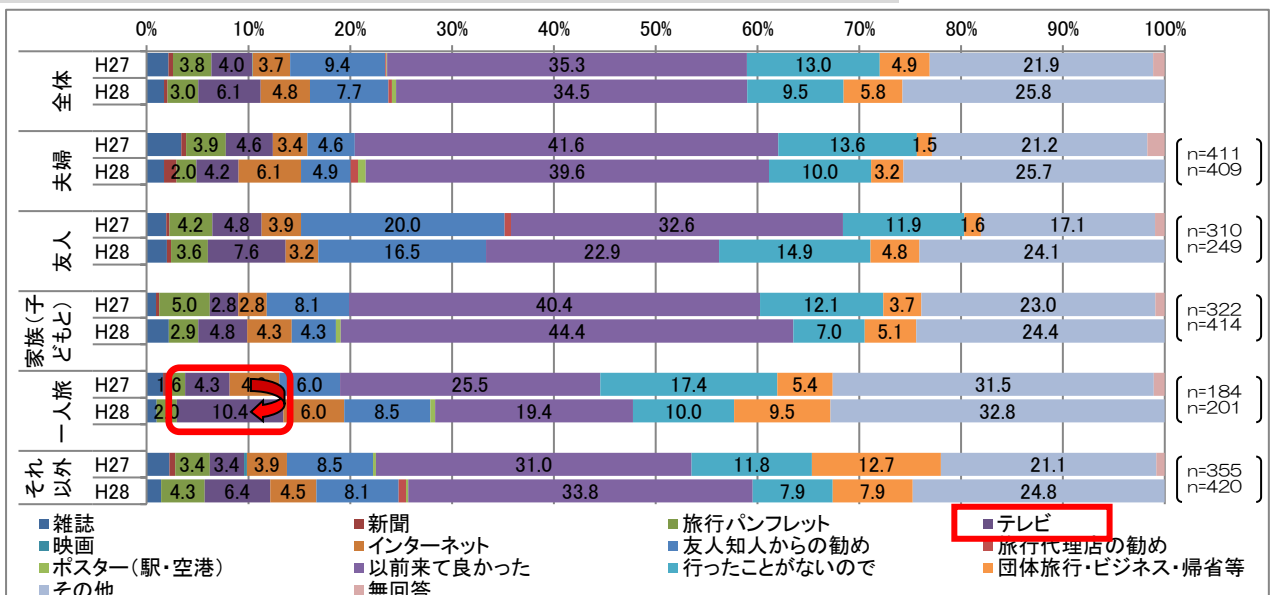
テレビ、インターネットが増加。「初めて」「2回目」はテレビの影響が大きい



・情報の入手先としてインターネットに押されている印象のあるテレビだが、今回の分析では、大きな役割を果たしたと考えられる。とくに「初めて」「2回目」への影響が大きかった。

●同行者の種類×伊勢市への来訪きっかけ

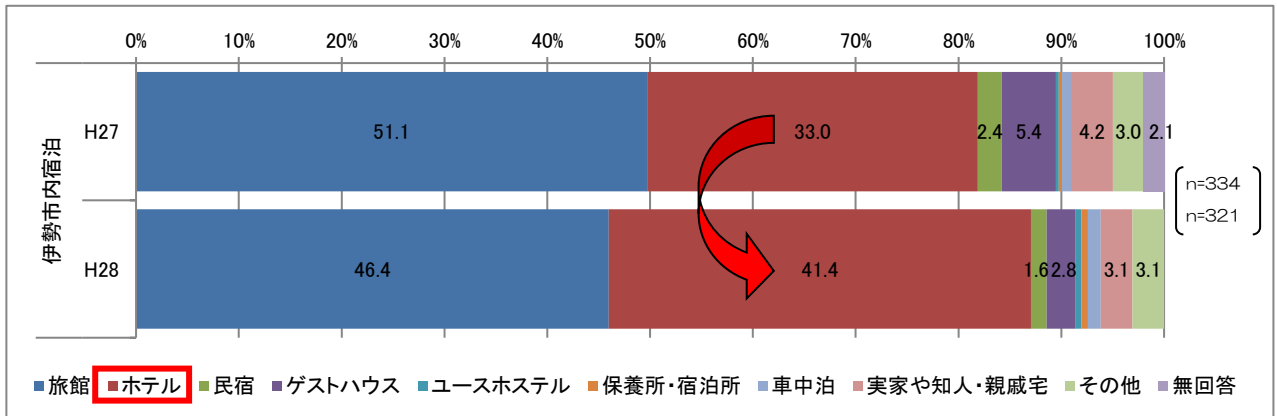
テレビがきっかけで来訪した一人旅が大幅増加



・来訪のきっかけを同行者の種類で分析した場合、一人旅ではテレビが大きく増加していた。

## ●宿泊施設の種類

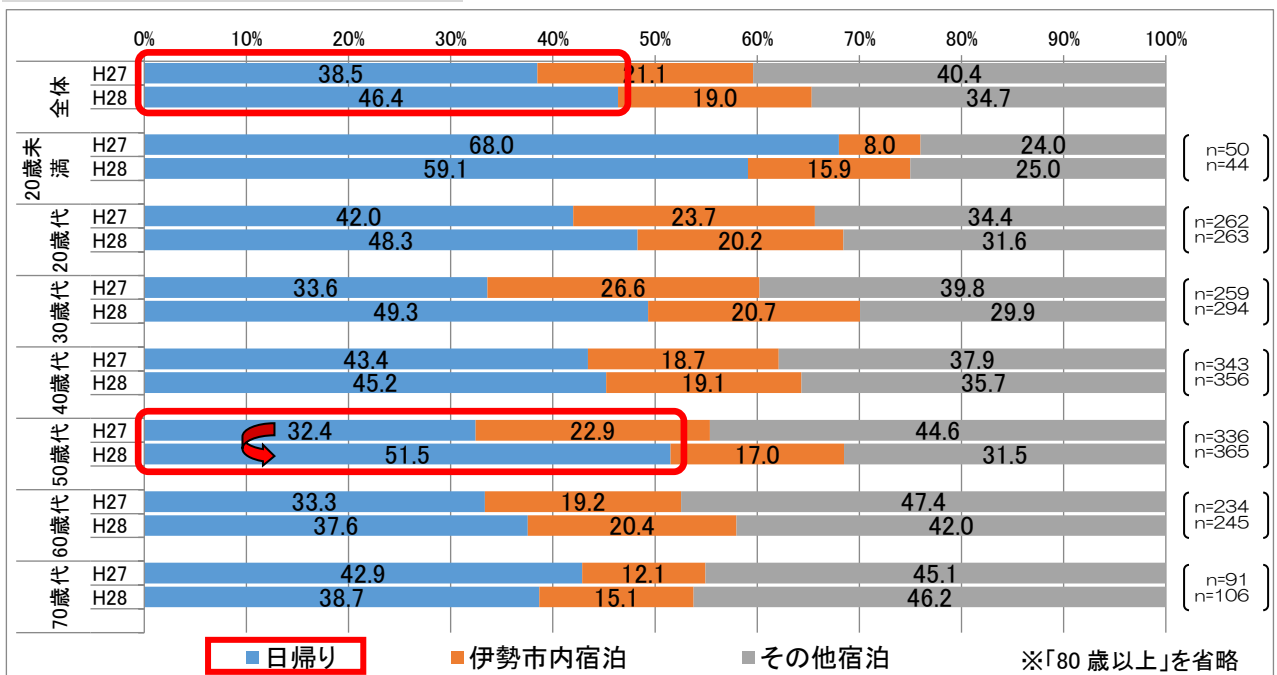
### ホテルが増加



- ・「ホテル」の割合が8.4ポイント増加している。近年、市内への新規出店が続いていることが影響していると考えられる。

## ●年齢×旅程別

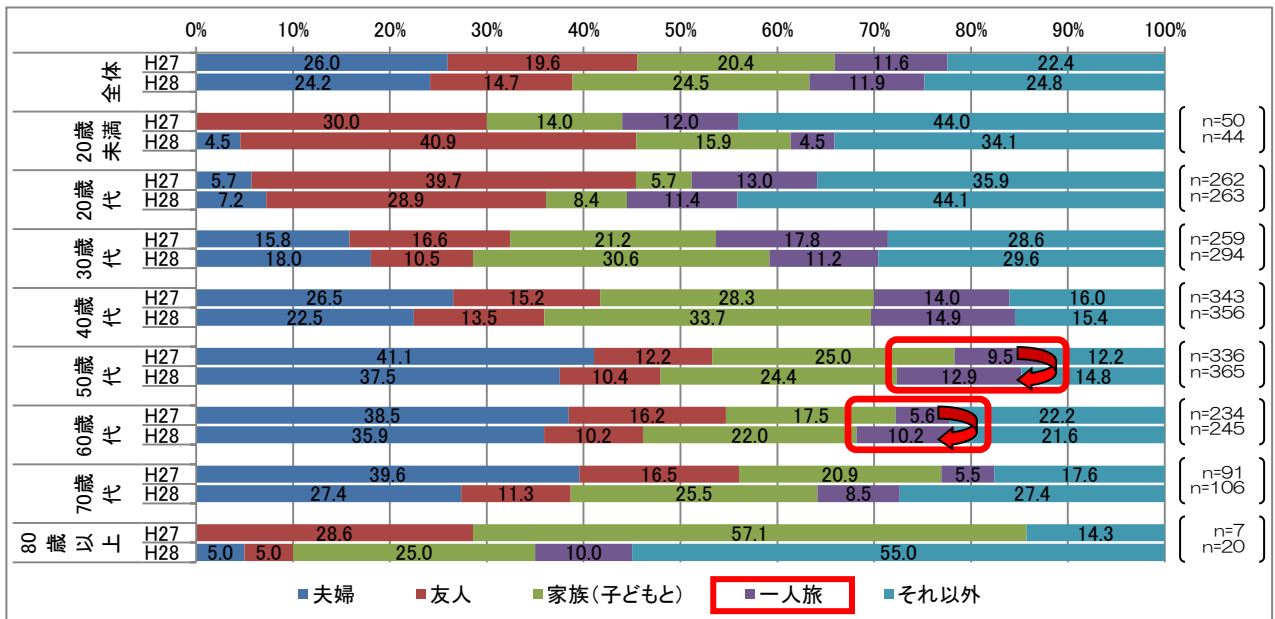
### 50歳代の日帰りが増加



- ・全体で日帰りが増加しており、中でも50歳代が19.1ポイント増と大きく増加した。

●年齢×同行者の種類

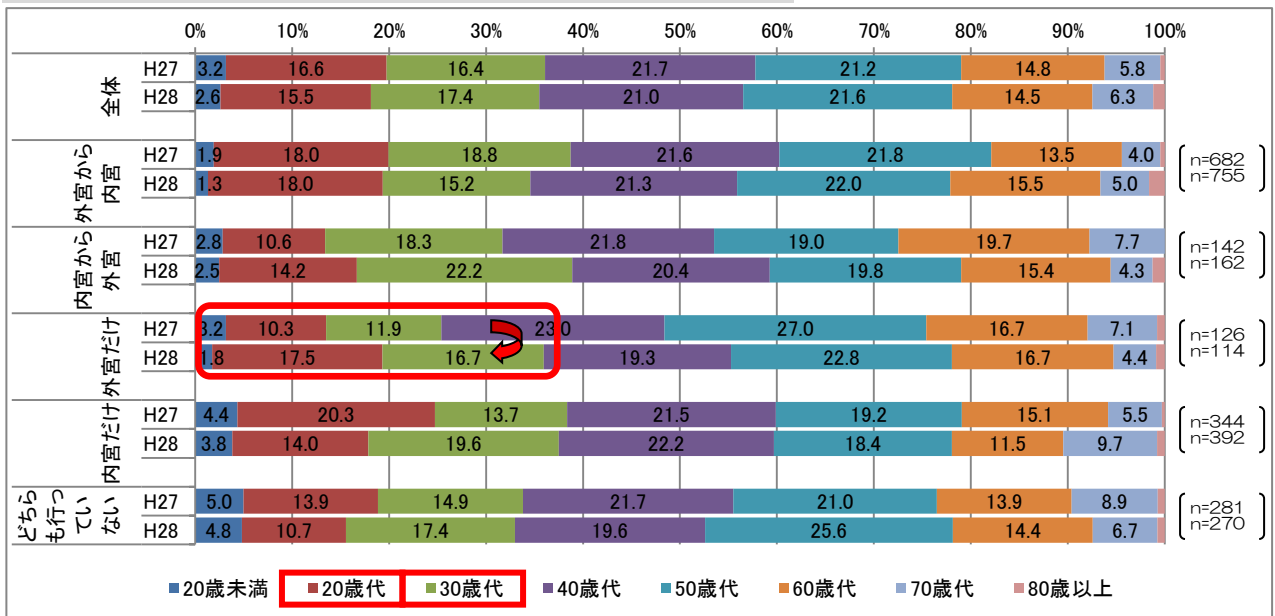
50 歳代、60 歳代の一人旅が増加



・全体的に一人旅が減少傾向にある中、50 歳代、60 歳代の一人旅が増加しており、60 歳代では 4.6 ポイント増となった。

●外宮内宮周遊順序×年齢

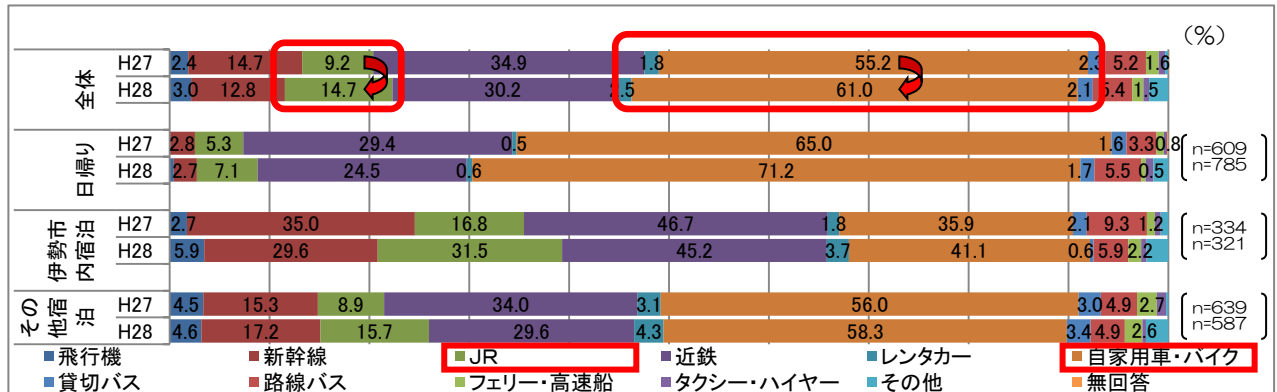
20 歳代、30 歳代の「外宮だけ」が増加



・「外宮だけ」は 20 歳代、30 歳代が増加しており、合計で 12 ポイント増であった。

●旅程別×交通手段

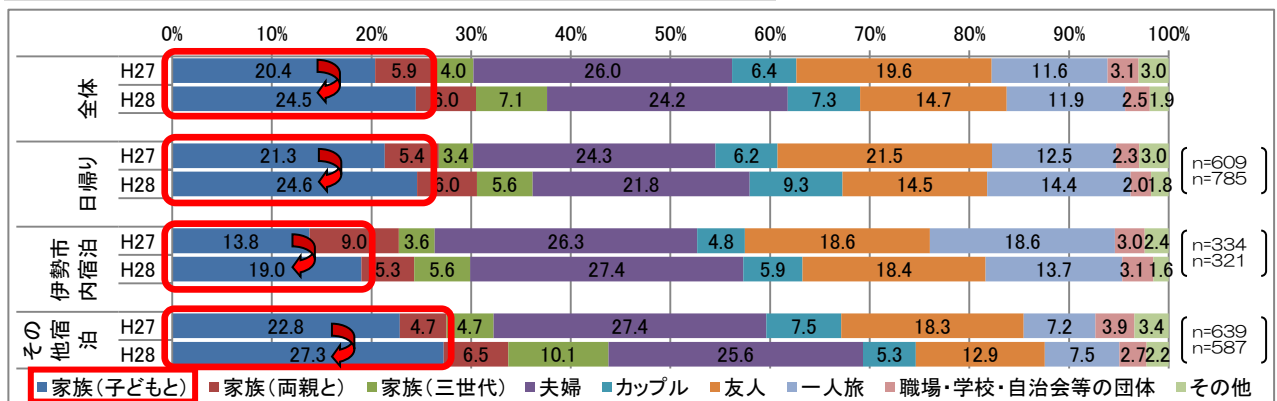
車が増加



・全体でJRが 5.5 ポイント増加した。車利用者の割合が増加しており、増加の割合は 5.8 ポイントであった。

●旅程別×同行者の種類

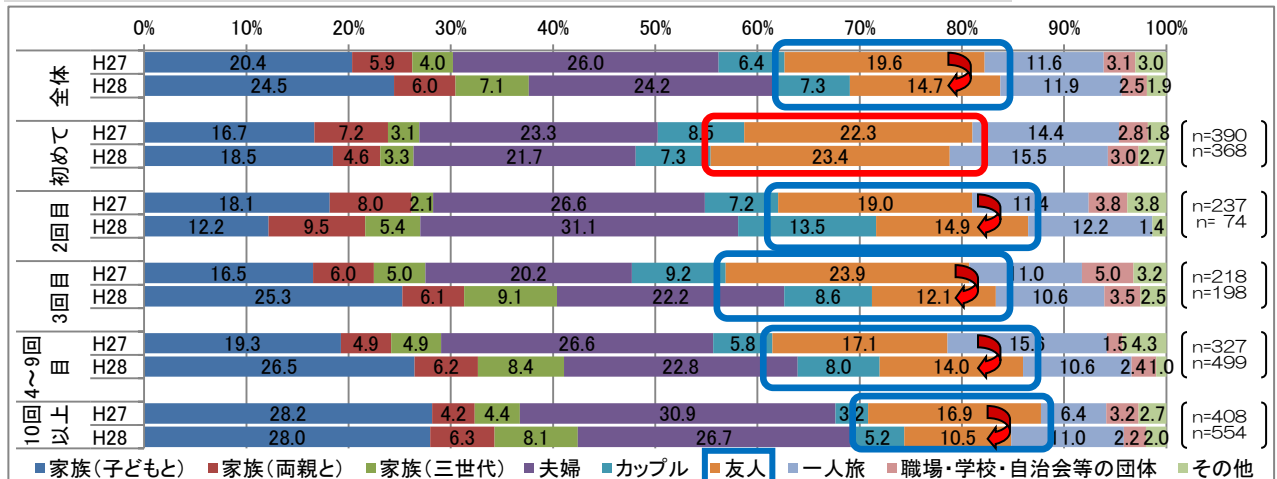
すべての旅程で家族（子ども）が増加



・日帰り・宿泊ともに「家族（子ども）」の来訪が増加しており、全体で 4.1 ポイント増となった。

●来訪回数×同行者の種類

全体的に友人が減少しているが、「初めて」では増加



・全体的に「友人」が減少している中、「初めて」のみ 1.1 ポイント増加している。

### ③懸念材料

#### ・日帰りが増加している

日帰りの割合が7.9ポイント増加し46.4%となり、全体に占める割合が50%に近づいている。日帰りは市内宿泊に比べると市内周遊、消費の促進に繋がりにくいため、基本的に好ましい状況ではない。一方で、市内宿泊の割合は2.1ポイント減に留まっていることから、単純に伊勢市を訪れる観光客の旅程が日帰りに移行している訳ではない。

また、①、②で分析したように、リピーターの増加、ヘビーリピーターの滞在時間増加、立ち寄り箇所数増加、「帰る時間が遅くなった」、「家族（子ども）」が増加など多くの好ましい傾向も見受けられることから、仮にこの傾向が今後も続いたとしても、今後も継続的にターゲットを絞った施策を実施することにより、市内周遊、消費促進に繋がると考えられる。

#### ・来訪時間が集中

平成27年と比べ、伊勢市に来る時間が10時台に集中し、割合では4.5ポイント増となっている。観光客で混雑することにより、満足度の低下に繋がる可能性があるため、好ましい状況でない。

また、「日帰り」での観光客は、5時間未満の短時間滞在が増加している。滞在が短時間となることで消費の減少が見込まれるため、好ましい傾向ではない。一方で、日帰りでの来訪が可能である片道4時間圏内の観光客が気軽に伊勢に来訪するようになったことで短時間滞在が増加したとも考えられる。

#### ・鳥羽志摩周遊が減少

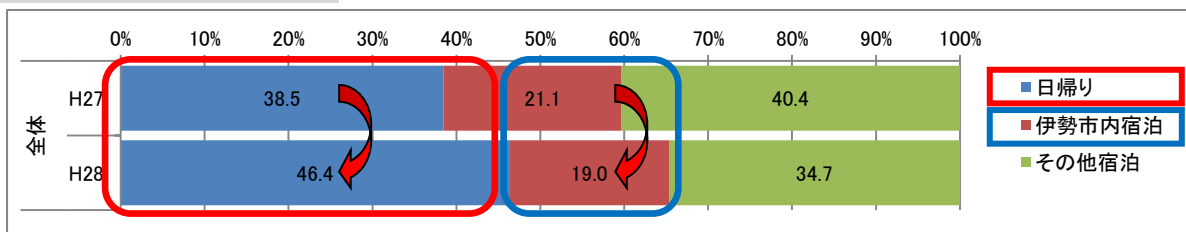
全体では、伊勢市外への立ち寄りなしが13.1ポイント増加し、56.5%となった。市内での立ち寄り箇所数の増加と合わせて考えると、他地域に立ち寄らず、伊勢市内を満喫する観光客の姿がうかがえる。

年齢層別に分析すると、若年層ほど鳥羽志摩への周遊性が低く、20歳代と70歳代の比較では、平成28年は20歳代の方が約14ポイント低い傾向があることが分かった。

来訪回数では、伊勢への来訪が10回以上のヘビーリピーターほど市外へは周遊しておらず、その割合は68.2%となった。

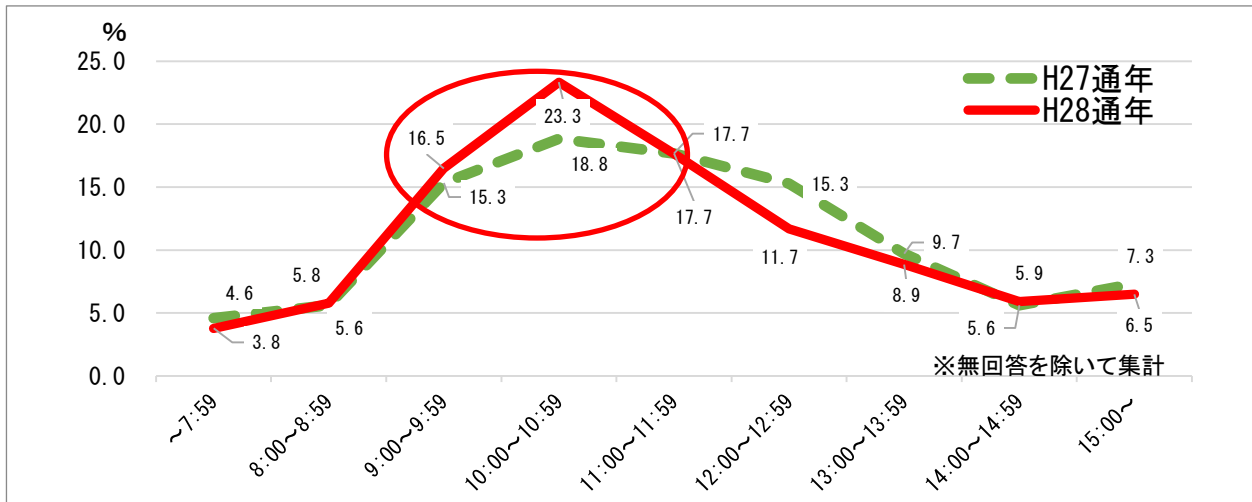
### ●旅程

#### 「日帰り」が増加



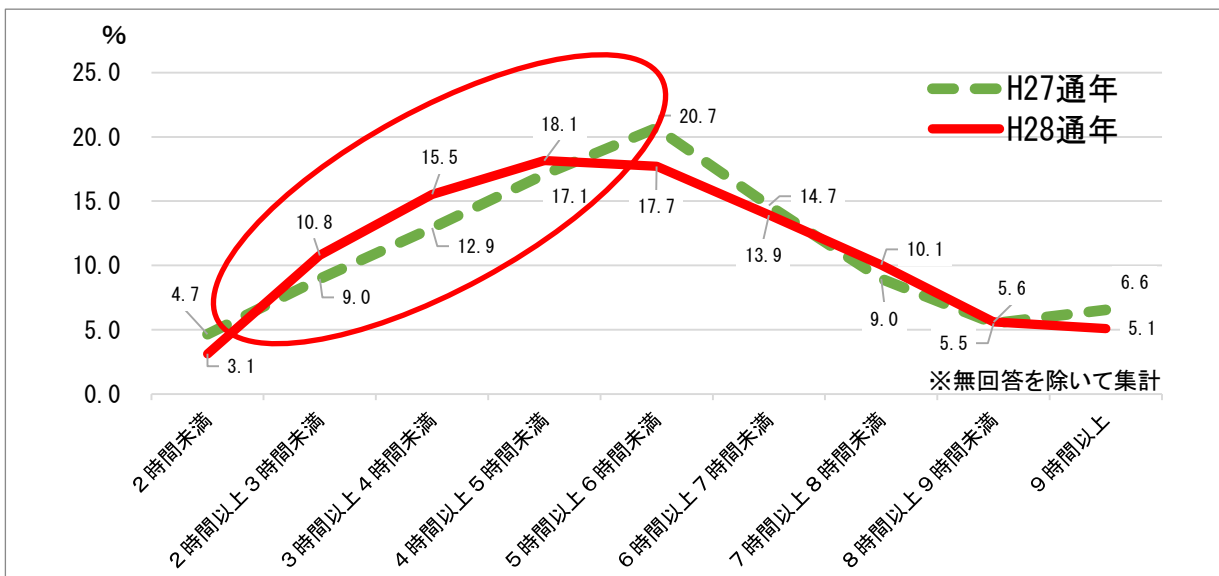
- ・日帰りの割合が7.9ポイント増加し、全体に占める割合が50%に近づいている。日帰りは基本的に市内周遊、消費の促進に繋がりにくいため、好ましい状況ではない。
- ・市内宿泊の割合は2.1ポイント減に留まっている。

## ●伊勢市に来た時間 ピークが集中



•平成 27 年と比べ、伊勢市に来る時間が 10 時台に集中し、割合では 4.5 ポイント増となっている。観光客で混雑することにより、満足度の低下に繋がる可能性があるため、好ましい状況でない。一方で、お昼前がピークとなっていることから、昼食を伊勢市で食べることで消費に繋がることが期待される。

## ●日帰りの滞在時間 短時間が増加

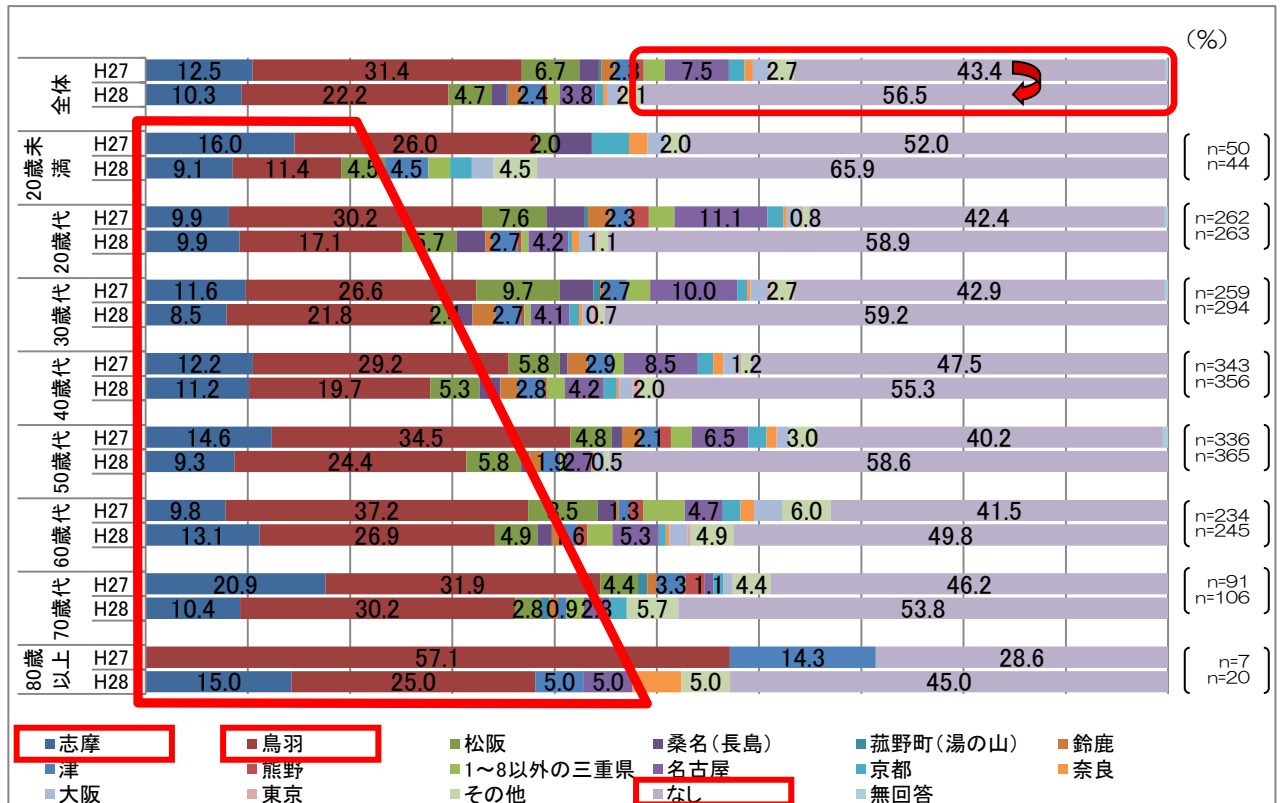


•「日帰り」での観光客は、5 時間未満の短時間滞在が増加している。滞在が短時間となることで消費の減少が見込まれるため、好ましい傾向ではない。一方で、日帰りでの来訪が可能である片道 4 時間圏内の観光客が気軽に伊勢に来訪するようになったことで短時間滞在が増加したとも考えられる。



●年齢×市外周遊性

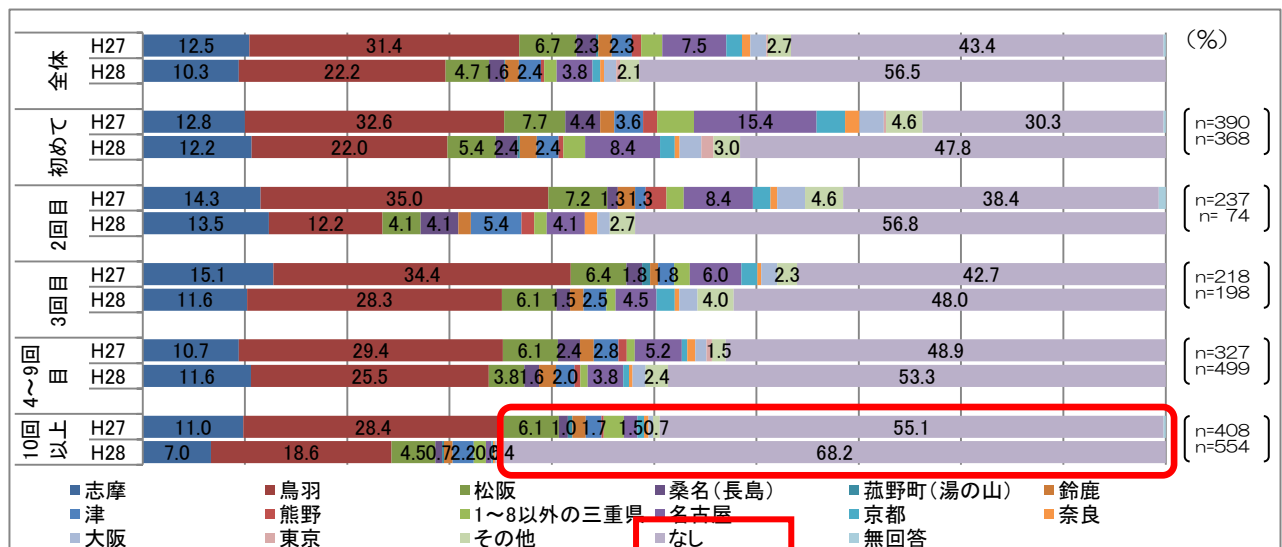
市外への立ち寄りなしが増加、若年層は鳥羽志摩へ周遊していない



・全体では、伊勢市外への立ち寄りなしが13.1ポイント増加した。年齢層別では、若年層ほど鳥羽志摩への周遊性が低いことが分かる。

●訪問回数×市外遊性

ヘビーリピーターの約7割は伊勢市以外へ周遊していない



・伊勢への来訪が10回以上のヘビーリピーターほど伊勢市以外へは周遊しておらず、その割合は68.2%となった。全体でも56.5%は市外へ周遊していない。



## ④今後について

### ・初めて伊勢を訪れる観光客の傾向から

「初めて」の観光客は、「市内宿泊の割合が高い」「公共交通機関で来訪」「神宮を核とした周遊が多い」など伊勢の観光にとって好ましい特徴があることが分かった。同時に、平成27年から平成28年にかけては20歳代、40歳代、60歳代が増加している。また、全体的に満足度や再来訪意向は高いことから、今後の誘客戦略、受入環境整備等施策を推進する上で、明確なターゲット設定を行うことにより、その効果を高めること可能と考えられる。

### ・若者の傾向から

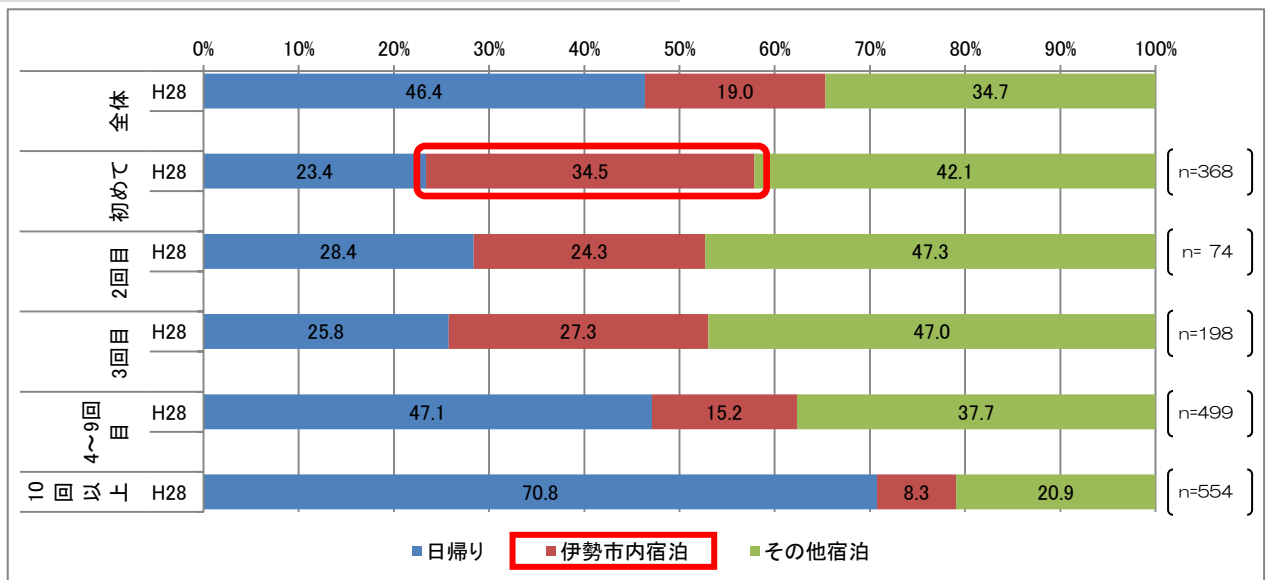
若い世代ほど伊勢を出る時間帯が遅い傾向が明確に見え、20歳代では17:00以降が38.8%に達している。消費額向上のため、夜の町の賑わいの創出や宿泊と食の連携などに取り組むターゲット層として期待できる。

### ・大規模イベント等の機会を活用

遷宮以降、継続して実施したPRに加え、サミットをきっかけとしたメディア露出により、より一層伊勢市の観光にとって好影響となった。今後も、お伊勢さん菓子博2017、全国高校総体、東京オリンピック・パラリンピック、三重とこわか国体など伊勢市の観光に大きく影響を与えると考えられる行事が多数続くことから、これらの機会を積極的に活かし、誘客や受入体制整備を行っていく必要がある。

## ●来訪回数×旅程

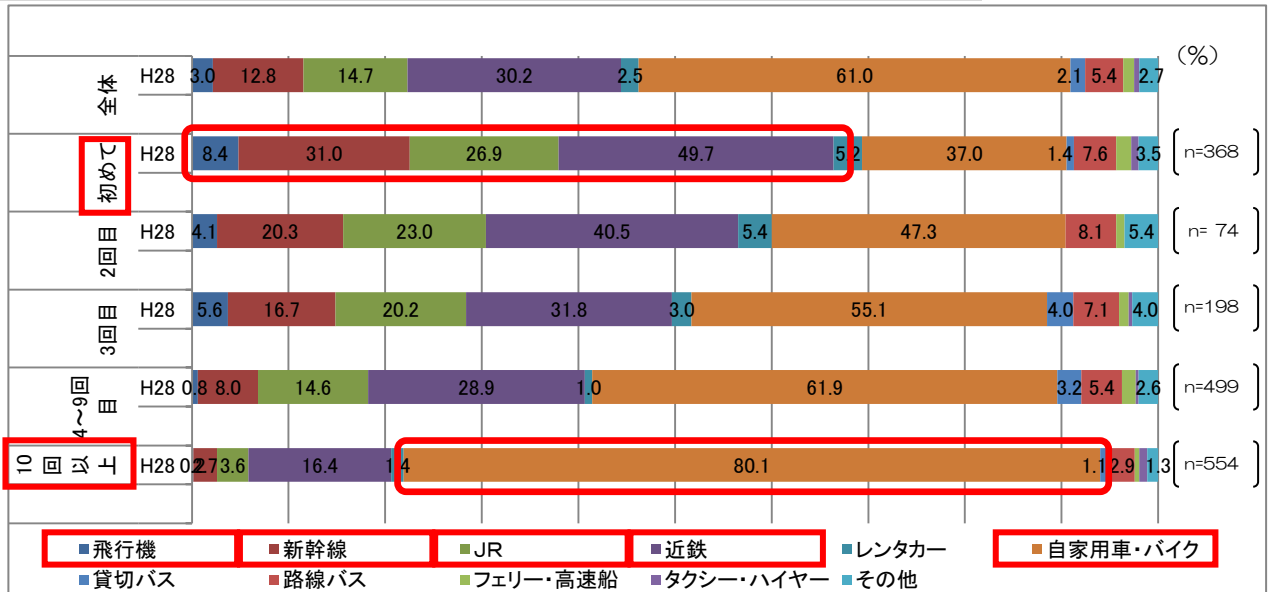
### 「初めて」は市内宿泊の割合が高い



・初めて伊勢を訪れる観光客は市内宿泊の割合が高く、全体と比較すると15.5ポイント上回っている。市内宿泊は、消費額の増加が見込まれることから、好ましい傾向である。引き続き、新規来訪者の獲得に向け、PRを実施していく必要がある。

●来訪回数×交通手段

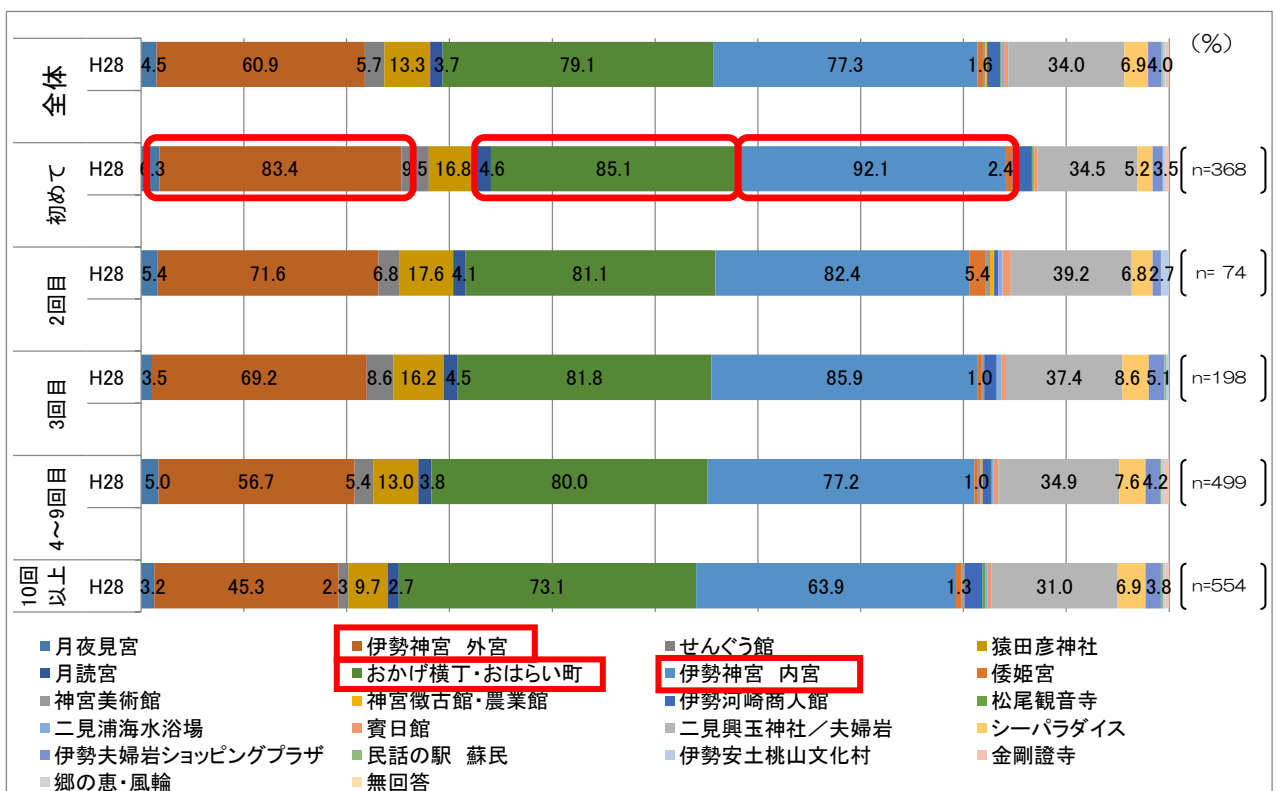
「初めて」は公共交通機関、リピーターは車で来訪



・他と比較して「初めて」は明確に公共交通機関利用の割合が高い。

●来訪回数×立ち寄り箇所

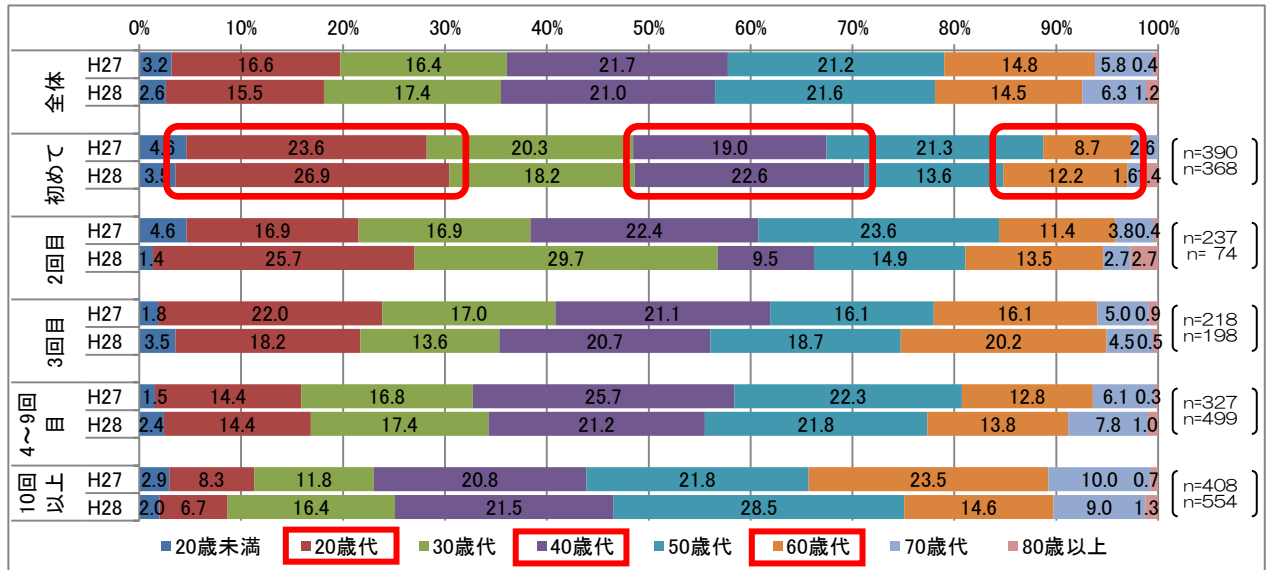
「初めて」は神宮を核とした周遊が多い



・他と比較して「初めて」は外宮・内宮・おかげ横丁・おはらい町の王道コンテンツを中心とした周遊の傾向が強い。

●来訪回数×年齢

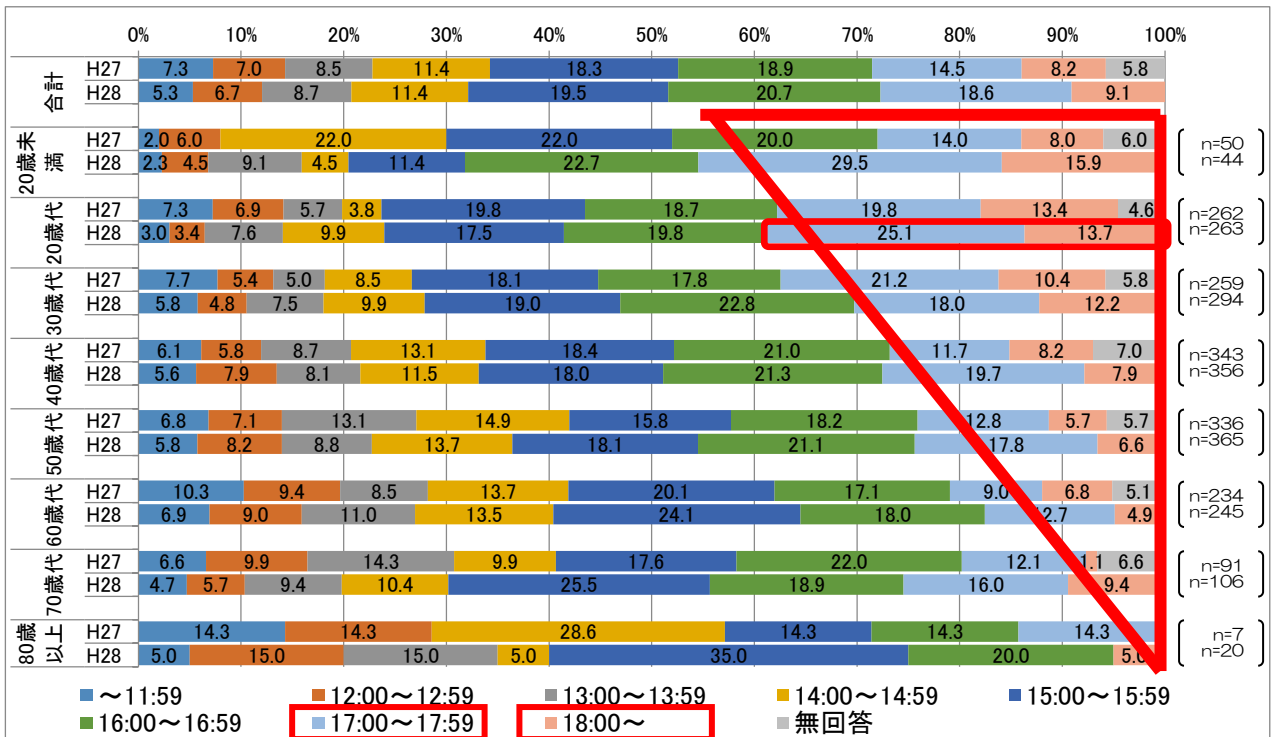
「初めて」は20歳代、40歳代、60歳代が増加。



- ・「初めて」の伊勢への来訪では、20歳代、40歳代、60歳代の伸びが大きい。
- ・新規誘客のターゲット層として期待できる。

●年齢×伊勢から出る時間

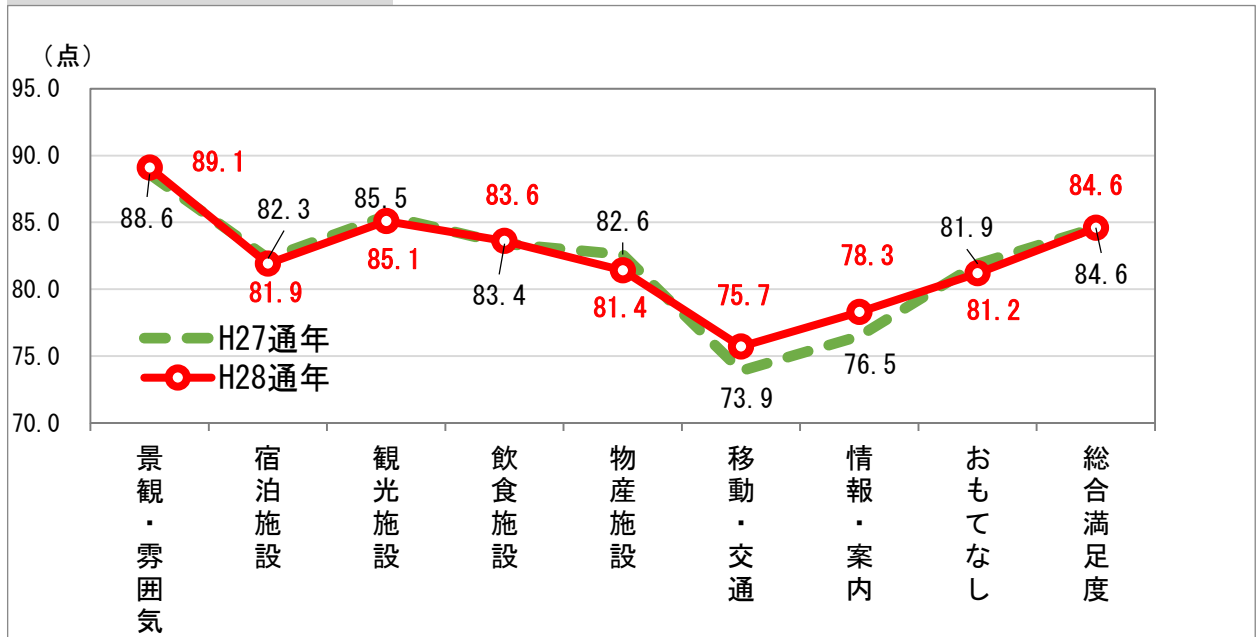
若者ほど伊勢を出る時間が遅い



- ・若い世代ほど伊勢を出る時間帯が遅い傾向が見え、20歳代では17:00以降が38.8%に達している。
- ・夜の町の賑わいの創出や宿泊と食の連携などに取り組むターゲット層として期待できる。

●満足度

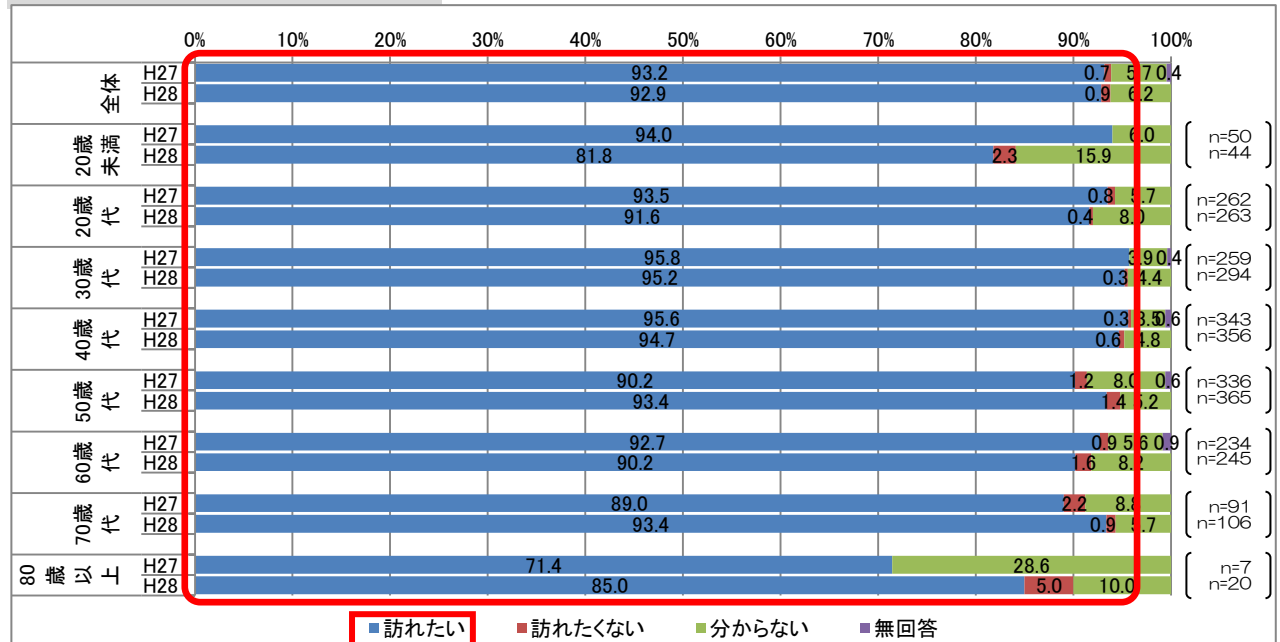
満足度は高止まり



・昨年に引き続き、総合満足度が84点を超えるなど高い満足度となっていることは非常に好ましい状況である。今後、リピーターを確保するためにも、伸びしろのある「移動・交通」「情報・案内」などを強化していく必要がある。

●年齢×再来訪意向

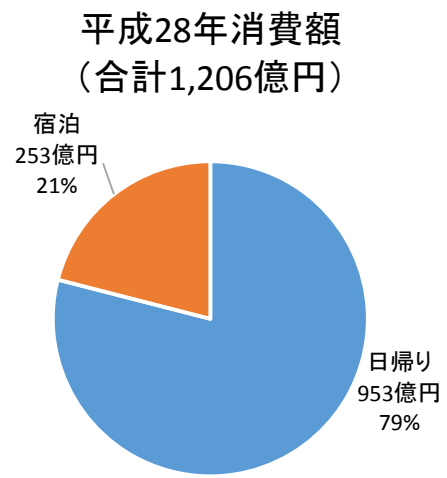
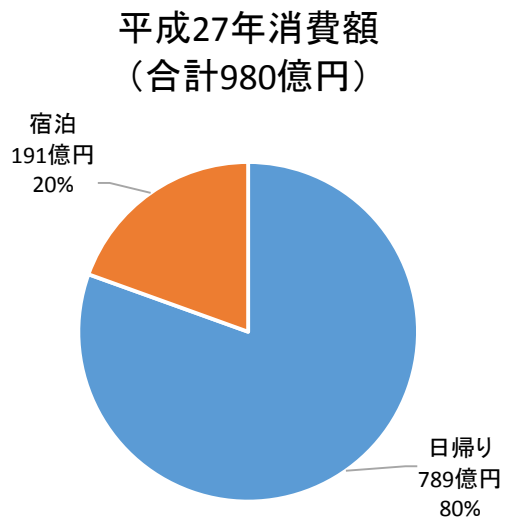
各年代とも高い傾向



・再来訪意向が各年齢層でおおむね90%を超えており、非常に好ましい状況である。次回への来訪が期待できる。

●消費額

平成27年より約2割増となった。



- 消費額は平成27年より約2割増となった。

## 【平成 28 年伊勢市観光客実態調査の概要】

参考

### 〈目的〉

- ・伊勢市を訪れる観光客の旅行目的、来訪手段、滞在種別（日帰り・宿泊）、立寄り箇所数、消費額、満足度など行動実態に関する調査を実施し、その特性、傾向等を分析することにより本市の観光の実態を明らかにし、本市の観光施策の効果的な推進を図る。

### 〈調査日〉

1期	平成 28 年 3 月 12 日（土）
	平成 28 年 5 月 14 日（土）
2期	平成 28 年 7 月 30 日（土）
	平成 28 年 8 月 27 日（土）
3期	平成 28 年 10 月 22 日（土）
4期	平成 28 年 12 月 17 日（土）

※本調査は平成 26 年 10 月から実施。

### 〈調査方法〉

- ・本市内の調査地点を訪れた観光客を対象に、調査員による「対面聞き取り調査」を行った。

### 〈調査地点〉

- ・本市内の下記 4 地点を対象とした。  
外宮周辺（外宮前バス停横広場）、内宮周辺（おかげ横丁）、二見（二見浦公園駐車場）、河崎（河崎商人館周辺）

### 〈調査対象〉

- ・調査地点を訪れた観光客を対象とする（市民を除外しない）。
- ・本調査では外国人観光客を対象としない。

### 〈サンプル数〉

（平成 27 年） 1,582 サンプル

（平成 28 年） 1,693 サンプル（※分析では市民 62 サンプルを除いている）

【内訳】 1 期：529 サンプル  
2 期：465 サンプル  
3 期：391 サンプル  
4 期：308 サンプル

### 【この資料について】

※本資料の作成には、平成 28 年 伊勢市観光客実態調査の速報値を用いて分析を行った。

※サンプル数の確保の関係上、「20 歳未満」、「80 歳以上」については、他の世代に比べて精度が低くなっている可能性がある。

※グラフ内の数値は分析する上で必要となるもの以外は省略している場合があります。